環境報告書 2026

概要版

Environmental Report



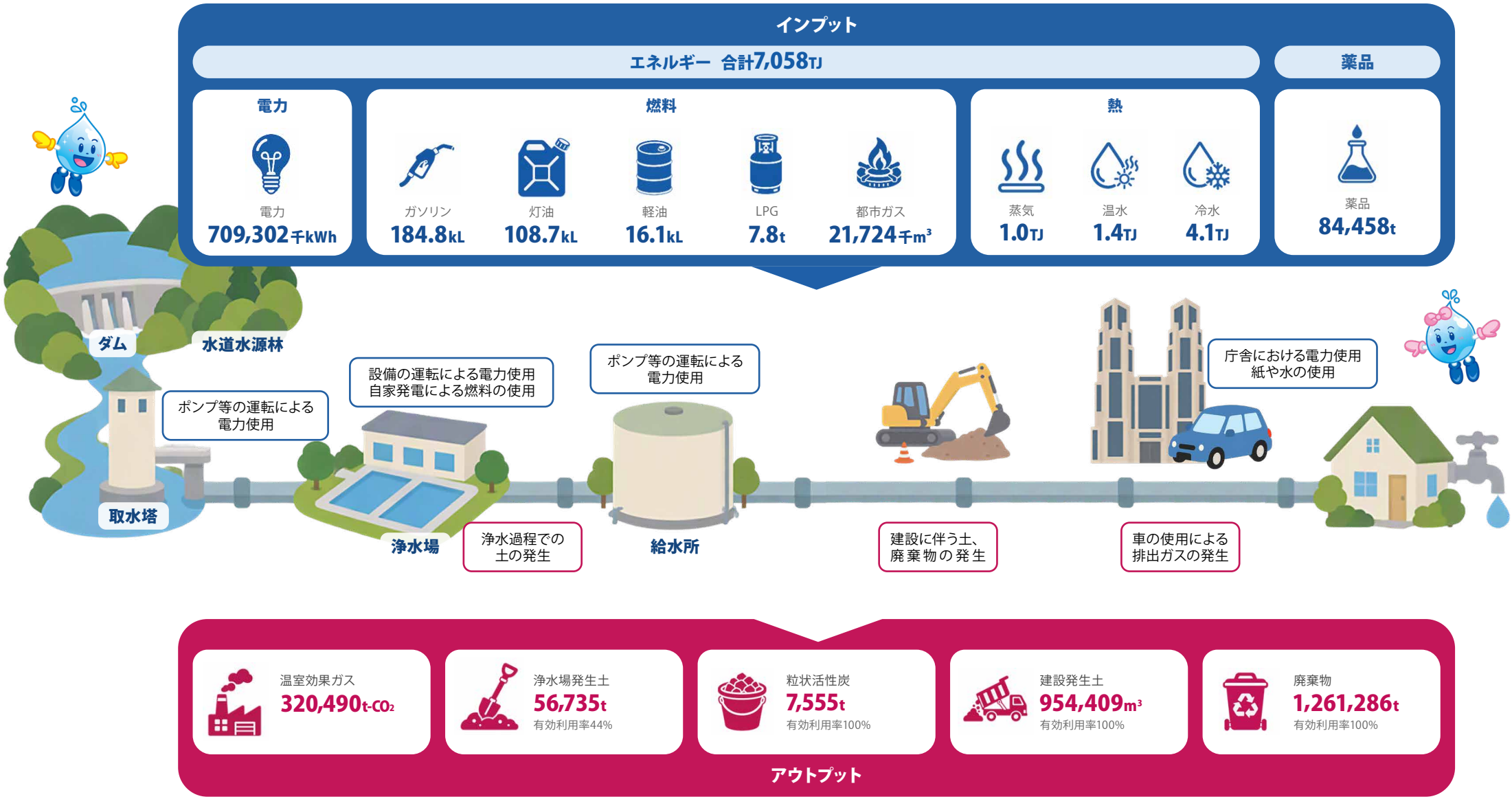
水をはぐくむ

豊かな地球環境を次世代に

東京都 水道局

水道事業が環境に与える影響と環境負荷の全体像

水道水を作り、お客さまに届ける過程で、環境に対して良い影響も悪い影響も与えています。
下の図は、取水段階からお客さまの蛇口に水道水をお届けするまでに水道局が環境に与える主な影響をフローで表したものです。



水道局の環境取組ー環境基本理念の実現に向けてー

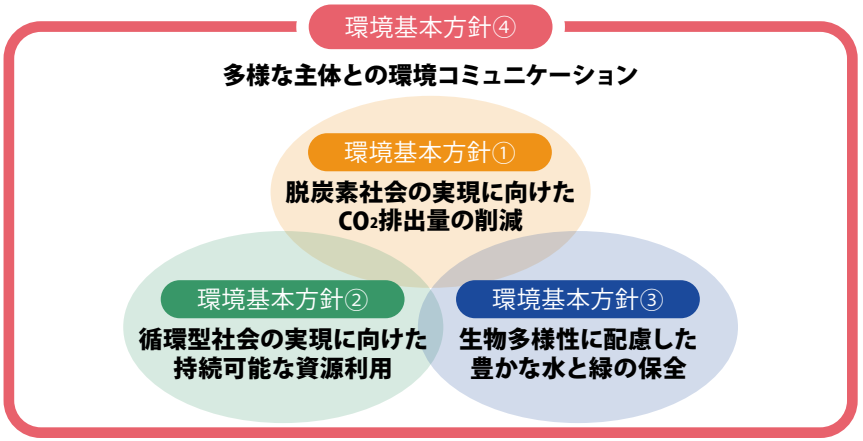
水道事業は、地球が育んだ貴重かつ限りある水資源を事業の基本としており、地球環境と関わりの深い事業です。
そのため、2000年に「東京都水道局環境基本理念」を定め、環境負荷の低減に向けた取組を推進しています。

東京都水道局環境基本理念

水は、私たちの生活に欠かせないものです。
その水をはぐくむ地球環境を守ることは、人類共通の課題です。
東京都水道局は、安全でおいしい水を安定的に供給するという事業活動を通して、
豊かな地球環境を次世代に引き継いでいくために努力します。

（2000年４月策定）

基本理念の実現を目指し、4つの重要分野について5年間の環境基本方針を定めました。
基本方針に基づく施策を着実に推進することにより、局事業に伴う環境負荷の低減を実効的かつ総合的に進めていきます。



環境基本理念の実現

環境５か年計画2025-2029

水道局は、「環境５か年計画 2025-2029」を 2025年 3月に策定しました。
計画では下の図の４つの環境基本方針を立て、水道局が環境に与える負荷（悪い影響）を減らすように取り組んでいます。

基本方針1



脱炭素社会の実現に向けた
CO_2排出量の削減

- 省エネルギー化の推進
- 再生可能エネルギーの利用拡大
- 燃料転換・電化
- カーボンオフセット
- 水道施設外における
  脱炭素化の促進

基本方針2



循環型社会の実現に向けた
持続可能な資源利用

- 廃棄物の抑制
- ペーパーレス化の推進
- 脱プラスチックの推進
- 水資源の有効利用
- 薬品使用量の低減

基本方針3



生物多様性に配慮した
豊かな水と緑の保全

- 生物多様性に配慮した
  水道水源林保全・機能向上
- 水道施設等における取組

基本方針4



多様な主体との
環境コミュニケーション

- お客さまとの連携
- 企業など様々な主体との連携



水道局の長期戦略構想、経営プランや施設整備マスタープランでも地球環境に配慮した活動を行うことを目標に掲げています！

基本方針1

脱炭素社会の実現に向けたCO_2排出量の削減 ―2025年度実績―

気候変動の影響を最小限に抑えるべく、エネルギーを大量に使用する事業者として、脱炭素社会の実現に貢献するため、多面的なエネルギー施策により、エネルギー使用に起因するCO_2排出量を着実に削減していきます。

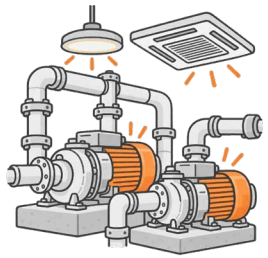
使用電力

約8億kWh消費



水道局は年間約８億kWhという大量の電気を使い水道水をつくり、蛇口まで届けています。水をきれいにし、蛇口まで水道水を送ることを少ない電力でできるように工夫しています。

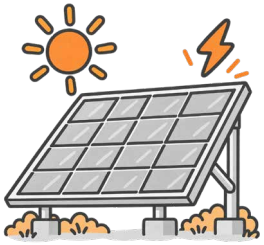
高効率機器に更新



14か所更新

水道施設や庁舎の空気調和設備、照明設備及び変圧器を高効率機器へ積極的に更新することにより、エネルギーの効率化を図っています。

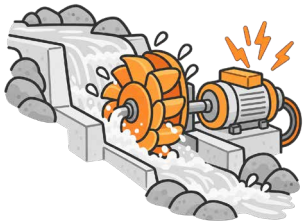
太陽光発電



約707万kWh発電

水道局では浄水場の配水池の上や建物屋上のスペースを有効に活用し、太陽光発電設備を整備しています。

小水力発電



約288万kWh発電

水道局では貯水池と浄水場の高低差や給水所の配水池入口の水圧を利用し、水道局ならではの発電をしています。

水道局環境報告書 2026（本編）では、CO_2 削減に向けた取組の詳細を記載しています。ぜひそちらも御覧ください！

基本方針2

循環型社会の実現に向けた持続可能な資源利用 ―2025年度実績―

物品を多量に調達し、廃棄物等を排出する事業者として、循環型社会の形成に寄与するため、
事業活動における省資源化など、持続可能性の確保に向けた取組を推進するとともに、提供するサービスの継続的な向上を図ります。

■ 粒状活性炭の有効利用



100% 有効利用

高度浄水処理過程において発生した使用済み粒状活性炭を、園芸用の土や燃料補助剤等として有効利用しています。

■ 水道水源林で発生する木材の有効活用



100% 有効利用

森林の管理作業では、主伐や間伐を実施しています。主伐材は、土木・建築資材、バイオマス発電等に利用され、間伐材は、森林内の土留めや森林管理のための歩道の桟橋や木柵などの材料に利用しています。

■ ペーパーレス化の推進



持ち運び可能なタブレット端末への切替えや会議用モニターの導入を行うことで、ペーパーレスの会議を推進しています。

また、水道局アプリを通じて、紙からデジタルへの転換を進めています。

■ プラスチック使用量の削減



Tokyowater Drinking Station（水飲栓）を展開し、マイボトルの推奨を進めています。

また、職員にもマイボトルやマイバックの使用を呼び掛け、メールマガジンや研修を通じて、プラスチック削減に取り組んでいます。

水道局環境報告書 2026（本編）では、循環型社会の実現に向けた取組の詳細を記載しています。ぜひそちらも御覧ください！

基本方針3

生物多様性に配慮した豊かな水と緑の保全 ―2025年度実績―

天然資源である水を原料に活動する事業者として、気候変動による災害の抑制や水質の保全といった様々な恵みをもたらす生物多様性に配慮しながら、将来にわたり豊かな水と緑の保全に取り組んでいきます。

多摩川上流域の森林を適切に管理することで、森林の持つ働きを十分に発揮させることができます。

これにより、良質で安定した水資源を確保するとともに、都民の水がめである小河内貯水池の保全にもつながっています。

■ 森林保全作業



約627ha実施

森林の持つ多くの機能を十分に発揮させるため、間伐、枝打などを繰り返し実施しています。

■ 民有林の購入



約202ha購入

多摩川上流域の荒廃した民有林を管理するため、購入事業を進めています。

■ 都民と連携した森づくり活動



ボランティア
1,533名参加

「多摩川水源森林隊」を設立し、ボランティアの方々と協働して民有林で間伐、枝打、道づくり等の保全活動を行っています。

■ 生物多様性への配慮



シカの侵入を防ぐ柵を設置し、地元自治体や猟友会等関係機関と連携しながら適正な個体数となるよう管理捕獲を行っています。

水道局環境報告書 2026（本編）では、生物多様性に配慮した水と緑の保全に関する取組の詳細を記載しています。ぜひそちらも御覧ください！

基本方針4

多様な主体との環境コミュニケーション　―2025年度実績―

お客さまをはじめとする多様な主体との環境コミュニケーションを積極的に推進することで、環境施策の実効性を更に向上させていきます。

■ 水道キャラバンの実施



学校キャラバン
1,177校 実施

水道水の安全性や蛇口に届くまでの取組、水道水源林の役割や節水等について、映像や実験等分かりやすく親しみやすい手法で伝える水道キャラバンを実施しています。

■ Tokyowater Drinking Station の PR



Tokyowater Drinking Station（水飲栓）の普及啓発を通して、水道水の飲用とそれを通じた環境配慮行動の促進を図っています。

今後もお客さまがマイボトルを使って街中で気軽に水道水を補給できることを広報し、環境意識の醸成を図っていきます。

■ 東京水道～企業の森（ネーミングライツ）



349名活動受け入れ

水道水源林の一部に、企業名などを使用して命名できるネーミングライツを設定し、企業と水道局が協働して森づくりを行う、東京水道～企業の森（ネーミングライツ）の取組を行っています。

■ 事業者との連携



適切な住民対応や水道事業の PR、地域に配慮した積極的な環境対策を行うなど、水道工事のイメージアップにつながる取組を実施した事業者に対し表彰を行い、環境に対する意識啓発や積極的な取組を推進しています。

水道局環境報告書 2026（本編）では、環境コミュニケーションに関する取組の詳細を記載しています。ぜひそちらも御覧ください！